

4日 1/23

# 猛き人類へ影響抑制を

## 環境アセス 審査会答申 トヨタテストコース

豊田市下山区などで計画されるトヨタ自動車の新車開発用テストコースと研究施設の用地造成についての環境影響評価（アセスメント）方法を審査する環境影響評価審査会が二十二日開かれた。用地を造成する際企業庁に対し、計画地周辺で営業が確認された猛き人類の生息状況を調査し、影響を最小限にとどめるよう求めるなど十六項目の検討結果を神田真秋知事に答申した。

山間地での大規模な用地造成事業という特性を踏まえ、答申ではまず、「できる限り現在の地形や樹林地、水系を生かすよう配慮すること」として、計画地周辺で猛き人類のオオタカやサシバ、ハチクマ、ノスリについて「必要に応じて



専門家の助言を得て論文を掲げた。その上で方法書に対し、騒音や水質、地下水、生態系などへの影響の低減を強く求めた。

中でも、計画地周辺で今年一―八月に確認された猛き人類のオオタカやサシバ、ハチクマ、ノスリについて「必要に応じて

集状況及び行動圏等を適切に調査、解析すること」と強調。調査手法に関しても「可能な限り環境への影響を少ないものとする」という要請している。

また、この区域には森林が広く分布していることから、樹木の伐採に伴って二酸化炭素の吸収源がどの程度減少するかを把握する必要性も指摘した。

答申を受けて神田知事は県企業庁に意見を述べ、同行は項目や手法を選定した上で環境影響評価を実施する。

（山本真嗣）